未来の掛川を描き出すワークショップ: 7/31 14:00-16:00 @ポートカケガワ

参加者: 中学生 / 高校生 / まちづくりアドバイザー /茶生産者 / 市職員

今の掛川の好きなところ

- ・掛川城御殿
・重要文化財！
- ・潮騒橋
・海が綺麗！
- ・掛川城
・綺麗な景色
・掛川第一小学校
- ・栗が岳
・遠くから見る茶の文字と頂から見る茶畑が綺麗
- ・掛川城と桜
・掛川城の天守閣と掛川桜が一緒に映っていて魅力的
- ・掛川城が綺麗に見える
・ネズミ山が近くにある
- ・掛川祭り
・歩行者天国が楽しい！
- ・活用しきれていない様々な地域資源
・オーガニック
- ・海外からのお客様からは茶工場も畑も人気

10年後にも残していきたい掛川の魅力

- ・文化財を残したい！
・自然、緑を守る
- ・人の温か（掛川らしさ、宿場まちの性質）
- ・掛川城下町
・歴史的な建物、祭り
・茶畑、田んぼ
- ・田舎らしさ
・掛川100景、学びにくる人を大切にする
- ・伝統、海、自然
・掛川城
・新幹線
- ・文化の継承が大事
・若い世代の定住
- ・お祭りを維持できる地域の関係性
- ・人が大事
- ・茶園景観

10年後に創っていきたい掛川の魅力

- ・街の方向性の統一を！
・学生が遊べる所（シャッター街再生）
- ・雨量の体育館
・好きな時に自由に使える場所
- ・ショッピングモールに変わるような賑わいの場
- ・お茶のテーマパーク
- ・働く場所
・若者がもっと住みたくなる仕組み
- ・様々なステークホルダーをつなぐ中間支援組織
- ・夫婦共働きじゃなくても子育てなどに専念できる世界
- ・子供、中高生の居場所
- ・お茶のカフェ
・お茶をきっかけとした場所づくり

10年後の掛川に住む自分から、2025年の掛川に住む自分への手紙

・若者によりもっと盛り上がる地域の活動が増えました。市民への還元が手厚くなり、公共機関が安くなり、行き来が自由に。
・自然を大切にしてください。自然や歴史的な建物に残すことにお金と時間を使って欲しい。
・ビルが増えましたが、お茶畑は変わっていません。
・伝統や人の良さはそのままに、整備が必要なところがしっかりされている。
・未来を担う若者がやりたいことを後方支援する地域のじじばば。
・もっとオープンマインドを持ってほしい。お茶作りは変わらず続けている。
・子育てしやすい街になっている。心休まる場所が増えています。

未来の掛川を描き出すワークショップ: 8/1 9:30-11:30 @竹の丸

参加者: 市役所職員

今の掛川の好きなところ

- ・桜咲く学校
- ・旧原泉小学校
- ・残したい学校支部
- ・掛川木造駅舎、古き良き掛川のシンボル
- ・掛川城
- ・歴史と人工物の融合
- ・茶もいいけど田んぼの景色もいい！
- ・海の良さも伝えたい！
- ・エメラルドグリーン
- ・残したい景色
- ・生涯学習の考え、武道など
- ・色々なことにつながる考え（市民共通の思想）
- ・子供に対する言葉の掛け方にも生涯学習がつながる

10年後にも残していきたい掛川の魅力

- ・農家が減っているけれどおお茶畑の景色は残したい！
- ・掛川祭りは一年に一回の大切な行事
- ・江戸時代から続いている
- ・人の温かみ（報徳の教え、生涯学習、協働）
- ・開発に負けるな！
- ・街並み、畑、茶など
- ・生涯学習センターの総本山は残していく
- ・祭りの準備やシステムも含めて伝統として残していきたい
- ・茶畑、茶の実、カラカラの音
- ・掛川城天守閣、目指せ100年

10年後に創っていきたい掛川の魅力

- ・シャッター街再生
→元々は活気のある商店街だった
- ・掛川城周辺のくつろぎ空間
- ・コンパクトシティへの転換
- ・ポイントで光るものがあるといい
- ・若者にとっての集まる場所
- ・遊び場
- ・人が減っても茶畑の風景を保てるシステム
- ・田園風景
- ・DXの応用で維持できている
- ・市内ならどこでも行ける障壁のないまち（ソフト／ハード）
- ・掛川といえば思いつくプロスポーツチーム！

10年後の掛川に住む自分から、2025年の掛川に住む自分への手紙

・コンパクトシティを目指す。掛川城は変わりなくシンボルとして鎮座している。
・伝統文化について、守り、引き継いでいくものと、変化させていいものを作り上げていく。
・くつろぎ空間が再整備されている。駅から城までをウォーカブルに展開していく。
・Allオンデマンド交通から派生した『新交通手段』で市内を行き交う。
・祭りの時期に合わせ地域のつながりは形成されている。
・学校の数は減りましたが、子供達が遊ぶ施設は増えました。スロープが増え、多くの車椅子の人を駅前で見かけるようになりました。

未来の掛川を描き出す: 8/1 14:00-16:00 @竹の丸

参加者: 自治会長 / 地域おこし協力隊 / 主婦 / 生産者 / 市職員 / 他一般市民etc..

今の掛川の好きなところ

- ・祭り→同じ街の象徴
  ・仲間意識
- ・掛川のランドマーク市役所、大きな空間
- ・掛川市役所←市民に見られている感覚
  ・信頼、自慢できる場所
- ・茶・苺・水田が織りなす景色
- ・掛川城→シンボル
  ・千浜砂丘の自然×潮騒橋と風車
- ・自然の中に風力発電があるのは賛否両論
- ・分断がない街
- ・座って聴くより体験する
  ・市民が交流して成熟する
- ・お茶の淹れ方

10年後にも残していきたい掛川の魅力

- ・海・山・川
  ・田の風景
- ・人の温かみを感じる市民性と豊かな自然
- ・安心できる生活空間
- ・郷土愛の強い住民
- ・砂丘
  ・侵食を食い止めたい
- ・新幹線は止まってほしい！
- ・暖かい掛川気質
- ・報徳の文化
  ・若い人たちが帰って来やすい環境
- ・welcome気質。お祭りがあるから帰っておいで、など

10年後に創っていきたい掛川の魅力

- ・市民活動をしっかり支援する仕組み
- ・棚田パーク
  ・子供達も遊んで楽しめる棚田をパークにしてしまう
- ・変化を恐れずに変えていける柔軟な市民性
- ・世代関係なく、田園風景は残していきたい
- ・出る杭は打たれる市民性から、新しいことに背中を押す市民性へ
- ・人の温かみ
  ・自然を計画的につなげてリブランディングする
- ・掛川に居を構えつつ都会に通勤
- ・公共性の高さ、いい景観デザイン
- ・公共交通

10年後の掛川に住む自分から、2025年の掛川に住む自分への手紙

・「スマートに持続可能な街」として注目されるようになった。南北の移動がすぐになりました。山と海の距離が近くなりました。
・10年前よりも子供達が安心して遊べる場所が増えた。
・自分の価値観を押し付けず、何かに取り組む人を応援できる人が増えてほしい。子供と労働者を繋いで楽しむ活動をしている。
・自然を乱開発するような世の中ではない。管理された広葉樹が増え、その中に住む人も増える。
・耕作放棄地が少なくなり、森林公園になる。東西南北に新しい道路ができる。便利な街。
・お茶の淹れ方やお寺の文化は子供達にしっかりと伝えられています。
・自家用車がなくなり、オンデマンドタクシーが主流になります。異世代交流が行われ、「つなぐ」が体感できる。

未来の掛川を描き出す: 7/31 19:00-21:00 @やさいバス

参加者: 商工会議所職員、自営業者、農業生産者、市職員

教育

現状・課題

・少子化が進む中、学校の統廃合が問題
・掛川市独自の報徳の精神や生涯学習について、学校教育で学ぶ機会が少ないのでは？
・魚が切り身で泳いでいると思っている子どもがいる。体験を通じた学びが不足している
・部活動の地域移行により、親の送迎や金銭的な負担が増える懸念あり
・外国ルーツの子どもが増えており、多言語での教育機会が必要となっている

未来の教育像・アイディア

・デジタルを活用し遠隔でも授業を受けられるようにする
・SDGsをテーマにした修学旅行。学生が地域課題を解決するアイデアを出し、実際に企業や行政が実装するような仕組みを創出
・学校教育だけでなく、企業や地域との連携を通じて、体験的な学びを増やす
・地域クラブの問題を解決するために、施設の整備など受け皿をしっかり作った上で移行を進めるべき
・知識だけでなく、怪我をする経験を通じて危機管理能力を育むことも重要
・お金の教育など、社会に出てから必要なことを学校で教えるべき

くらしの環境

現状・課題

・交通インフラは車が中心。高齢者が免許を返納した後の移動手段が課題
・バスは赤字路線が多く、本数が少ないため、住民の足として不便な状況がある
・空き家が増えている
・住民同士の付き合いが希薄になっている部分がある
・「第3の居場所」が不足している

未来のくらし・アイディア

・AIオンデマンド交通や路面電車の導入を検討し、移動手段を多様化する
・人口減少に対応するため、コンパクトシティ化を進め、生活に必要な施設を集中させる
・空き家をリノベーションし、宿泊施設やコミュニティスペースとして活用
・「第3の居場所」として、カフェや工場直売所のような、住民が気軽に交流できる場所を増やす
・ゲートボールやママさんバレーなど、地域コミュニティに参加する機会を増やす
・景観の良さや治安の良さといった、現在の掛川の魅力を維持する

産業

現状・課題

・お茶の生産者が高齢化し、後継者不足が深刻な問題となっている
・お茶は「飲み茶」の需要が下がり、収益性が低下している
・地域の伝統産業である醤油の「木桶職人」が減り、文化が消滅する危機に瀕している
・多くの企業があるが、人手不足に悩んでいる

未来の産業・アイディア

・お茶の価値を高めるため、海外で需要の高い抹茶への転換や、大規模な抹茶工場を建設して生産を協業化する
・外国人労働者を積極的に受け入れ、担い手不足を解消する
・外国人観光客を誘致し、地域全体を盛り上げる
・工業地帯にデータセンターを誘致し、税収の増加やインフラ整備につなげる